

初来日のクレタ島 アカデミー所長の A・パパドロス氏

「キリスト者は平和のために貢献することを求められています。問題は、どういふ質の平和かという事です。ローマ時代に人々はパックス・ローマ(ローマの平和)を

享受しました。たしかに平和という言葉が入っていますが、ローマの軍隊、権力が地中海を支配した時代です。私どもはもちろん昨年十二月、レーガン・ゴルバチョフ間でな



されたINF全廃条約の調印を喜んでいました。しかし私たちが望んでいるのはアメリカの平和でも、ソ連の平和でもありません。米ソが上に立って他の国が犠牲になるような平和ではありません。世界中の国民が平和の中に置かれることを望んでいるのです。しかも正義と自由の伴った平和を望んでいるのです(一月三十日、東京・銀座でのキリスト教と文化講演会での発言から。)

キリスト新聞

一九八八年 二月十三日号

（総評、講演内容掲載予定）

1988. 2. 13

キリスト新聞

キリスト教と文 化講演会から

(1)

私はギリシア正教会出身の者です。クレタ島は小さい島ですから、地図でもよく分かります。けれども、地中海の真ん中にある島です。クレタ島も日本と同じような島国ですが、私たちはやはり一つの小



たようにさまざまな新しい正教会の波があるわけです。ロシア正教会は一九八八年、今年が創立千年の祝いの年で、その他の正教会はブルガリア、ルーマニア、ポーランド、チェコスロバキア、フィンランドにあり、それぞれ歴史をもっているわけです。

もう一つ、ユーゴスラビアの南の方に、アルバニア共和国があり、その正教会も特別な波があるわけです。ロシア正教会は一九八八年、今年が創立千年の祝いの年で、その他の正教会はブルガリア、ルーマニア、ポーランド、チェコスロバキア、フィンランドにあり、それぞれ歴史をもっているわけです。

以上のように、正教会はさまざまな総主教区に分かれていますので、何か代表的に発言をする場合は、全体的な台

意をとってからでないと言言することができないという組織になっています。統計上は、ソ連も含めて二億人の信者が正教会の会員として世界中にいるわけです。ギリシア本国、それにクレタ島の九八%の人たちはギリシア正教会の会員です。から、たいへん高い数字です。

私どものクレタ島での仕事も少しも理解していただくために、ギリシア正教会の特色を二つほど紹介させていただきます。

これは去る一月三十日、東京・銀座・教文館九階で行われた「キリスト教と文化講演会」での講演(通訳)日記教団横浜磯子教会・南吉衛牧師(をまとめたものです)。

【文責・編集局】

正教会から見た今日の世界

アレクサンドロス・パパドロス
ギリシア・クレタ島
正教会アカデミー所長

小さな国だと思っています。クレタ島も日本と同じように生活様式は非常に多岐にわたっています。政治的には、クレタ島はいうまでもなくギリシアの一部で、一体をなしています。しかし教会的にはギリシアとクレタは違っています。ギリシア正教会はギリシアの國けで独立しておりますが、クレ

ソ連含め二億の信者

世界四カ所に総主教区

ります。アレクサンドリアはエジプトにあるわけですが、アフリカ全国の正教会の責任を持つわけです。アンテオケヤにも総主教区があり、それがアラビア地方の正教会の責任を持つわけです。エルサレムにも総主教区があり、エルサレムの管轄をしています。ローマが国教になった当時、先の四つの総主教区が、ローマ教会と一緒にヨーロッパを管轄しました。

もう一つ、ロシア正教会もあるわけですが、今申しあげたようにさまざまな新しい正教会の波があるわけです。ロシア正教会は一九八八年、今年が創立千年の祝いの年で、その他の正教会はブルガリア、ルーマニア、ポーランド、チェコスロバキア、フィンランドにあり、それぞれ歴史をもっているわけです。

以上のように、正教会はさまざまな総主教区に分かれていますので、何か代表的に発言をする場合は、全体的な台意をとってからでないと言言することができないという組織になっています。統計上は、ソ連も含めて二億人の信者が正教会の会員として世界中にいるわけです。ギリシア本国、それにクレタ島の九八%の人たちはギリシア正教会の会員です。から、たいへん高い数字です。

私どものクレタ島での仕事も少しも理解していただくために、ギリシア正教会の特色を二つほど紹介させていただきます。

これは去る一月三十日、東京・銀座・教文館九階で行われた「キリスト教と文化講演会」での講演(通訳)日記教団横浜磯子教会・南吉衛牧師(をまとめたものです)。

【文責・編集局】

正教会から見た今日の世界

ギリシア・クレタ島 アレクサンドロス・
正教会アカデミー所長 パパドロス

キリスト教と文 化講演会から

(3)

従来のありきたりの方法ではなくて、新しい方法と組織というものを考えなければならぬと思います。

もちろん、どういふ闘いがあっても、あるいは人間の奪取という問題に今日ではかわってくるわけです。

それは例えば、クレタ島の場合には共産主義が、あるいは民主主義かという選択の問

ます。かたや教会は、神をこの社会から高い所、天の方へもっていかうとします。そういう二つの大きな矛盾が今日あるように思います。

そのように、この社会から神をのけものにしてしまおうという社会的な発想でもなく、また教会としても、この世から神を天国に送ってしまうという発想でもなく、今日、私たちは霊的で知的な教会の責任とはどういふものかを考えてみなければいけないのではないのでしょうか。

私もかやっています。ターグング(話し合い)の一つに

霊的で知的な教会

観光問題が重要課題

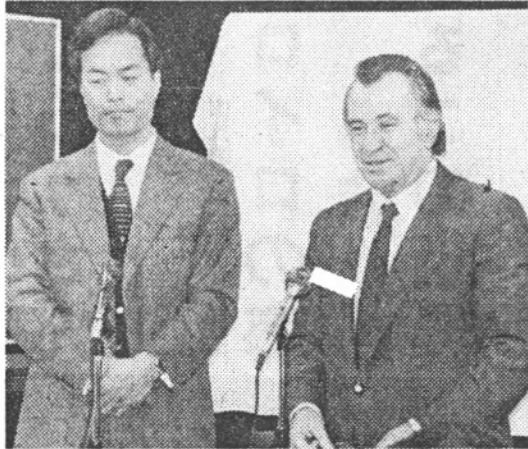
題になることもあります。

さらに今日の教会の問題は、宗教と学問(知識)の問題だと思えます。この世界的には、経済的には今日の社会は神をこの世からどこかへやっつけてしまおうとし、社会から神をのけものにしてしまおうとして

政治的な対話があります。ギリシアの政党代表者の会議も一つもっています。日本でテレビの国会中継を見て、国会議員たちがどのように議論しているのかを見ましたけれど、もちろん内容的に理解することはできませんでしたが

……、私のそのテレビ中継からの印象では、たいへん静かに落ち着いて話をしている、高揚して腕をあげて話す必要がないように思いました。

しかし、ギリシアの政治的な状況はたいへん緊張しています。そういうわけで、クレタ



パパドロス氏(右)と南吉衛牧師

タのアカデミーは国会議員などを招き、国会でやっている議論の方式とは違う方式をアカデミーでやってみようという希望を出します。私もそのようにいう時に、国会議員としてどういふ道徳のもとに対話すべきかとか、各政党とどうして結局人間というのどういふ意味があるのか、人間が取り残されているのではないかとかいった問題について討論して

もちろん、観光客がギリシアに来ることは、悪いことではありませぬ。その人間的な出会いや文化の触れ合いがあるからです。しかし、そこには試みが存在していません。

▼これは去る一月三十日、東京・銀座・教文館九階で行われた「キリスト教と文化講演会」での講演(通訳)日記(師)をまとめたものです。

これはギリシアやクレタ島だけではなく、地中海地域にも当てはまる問題です。ギリシアには約一千万人の人口があります。そのうち約百万人がギリシア本島以外に住んでいます。人口は一千万人ですが、観光客は年間七百万人ぐらいいり、そのために起こるたくさん問題があることを知っていたらいいと思います。

もちろん多くの人は観光客目当てによいホテルを建てればお金がもうかるかと思えるわけですが、実際はそうではありません。私もアカデミーは、そういう社会に対して厳しい問いを投げかけました。観光資源による収入と人間の正義とのかかわりはどうなっているか、という問題です。

もちろん、観光客がギリシアに来ることは、悪いことではありませぬ。その人間的な出会いや文化の触れ合いがあるからです。しかし、そこには試みが存在していません。

こういう話をすると失礼かと思いますが、私は今回フィリピンの小さな町を訪ねた時

【文責・編集局】

キリスト教と文化講演会から

(4)

正教会から見た今日の世界

アレクサンドロス・パパドロス
ギリシア・クレタ島 正教会アカデミー所長

先に、クレタ島では毎年一月三十日に祝う三人の偉大な人物の名前を挙げましたが、その一人、神学者・聖グレゴ

リオスの語った言葉に「ういのがあります。問題はキリスト者の生活とはいったいどういものかというところで。神学者・聖グレゴリオスが言った答えは、キリスト者の人生は、ピンと張られた綱の上を渡るようなものだ」ということでした。ピンと張られた綱の上でダンスをするようなものだ、というのです。彼はこのダンスをするというところを通して、人生に喜びを持ちたいという気持ちを表しているわけです。彼は、

私たちが悲惨な、悲しそうな顔をしているというところについて、全然考えておりません。この神学者・聖グレゴリオスが言っておりまして、ダンスをするというところは、ダンスをするわけではありませんから、だれかとするわけですね、もちろんだれかが一人でダンスなんかしていたら、ちよっ



と変わった人だと言われてしまってもかまいません。エゴイストな人だと言われてしまってもいいでしょう。ダンスをする、つまり喜び

危険を冒す教会に

だれが隣人かを問いつつ

を共にする、しかし、ピンと張った綱の上で、というところですね。非常に危険も伴っていることです。しかし残念ながら、私どもの教会はしばしば危険を冒すというところについて大変ちゅうちょするわけですね。むしろ、私たちは私たち自身の安全を求めていま私はいくつかの言葉を申し

上げたいのですが、危険を冒そうとしない教会は、もうすでにその命を失っているといふことです。

「シンド」という言葉は、ギリシア語の元の意味からいうと、「シン」というのは「共に」と、「ウド」とは一緒に行くということ、つまり道と一緒に行くという言葉です。それが私どものエキュメニカルな課題だと思えます。つまり、共に一つの道を行くとい

うことです。私たちが孤独であつたり、隔離されたりするのはなく、共にというところでです。今日、教会として、またキリスト者として、今日の問題に対して共に行くという新しい道を探さなければならぬのではないのでしょうか。共に歩み、そして隣人に仕えること

いうことです。これは、二年ほど前にWC Cの会議がキプロス島であった時のテーマになった用語ですが「隣人のために共に召されて」という題でした。そこで私たちは私たちの隣人がだれであるかというところを考へる必要があります。

先に触れましたバシリウス大帝聖バシレイオスの言葉ですが、彼は昔、神様は奴隷の口を通して私たちに語ってい

奴隷、虐げられて使われている人たちの声を決して聞き逃してはいけないと思えます。こういう問題の関連の中で、私たちは平和という問題についても考えたいと思えます。

私はクレタ島ではさまざまな形で、平和の問題にかかわって来ました。世界の七カ国が非核宣言をしていますが、ギリシャはその中の一つに入っています。私どもはアメリカ軍の駐留、核の駐留に対して反対しています。私たちは、ソ連が地中海に核基地を持つことにも反対しています。そういうわけで、地中海全体が今、危機の状態、緊張状態におかれています。

言うまでもなく、平和のために貢献するということは、すべてのキリスト者、教会の課題です。

▼これは去る一月三十日、東京・銀座・教文館九階で行われた「キリスト教と文化講演会」での講演(通訳「日キ教団横浜磯子教会・南吉衛牧師」をまとめたものです。

【文責・編集局】

ギリシア新刊
1988. 4. 30付

ギリシア



クレタ島の正
教会アカデミ
ー所長アレク
サンドロス・
パバドロス氏

が今年一月、東京・銀座
・教会館で講演した。そ
の要旨を紹介しよう▼
「ローマ時代には、人々
はローマの平和を享受し
た。それはローマが軍隊
つまり権力で地中海を席
捲(せっけん)した時代
です」私もギリシア人
として、昨年十二月のレ
ーガン・ゴルバチョフ間
でなされたINF調印を
大変喜んでいました▼パ
バドロス氏はここで本論
に入り、「私たちは、アメ
リカの平和や、ソ連の
平和を望んでいるので
はありません。核を中心
とした平和でもありませ
ん。世界中の国民が平和
の中におかれることを望
むのです」▼ここで氏は
次のような古事を語っ
た。エジプトの荒野に住
む聖マカリオスの「死者
との対話」という話。荒
野を歩いてきた彼は一人
のされど、うべに出会い、

「地獄とは一体どうい
うものか」と聞いた。する
とされどうべは、「炎に多
くの人々が囲まれて燃え
るような苦しみを味わっ
ています」と答え、さら
に続けて「もっとつらい
ことは、腕と腕とを背中
合わせに縛られて、相手
の顔が見えないこと
です。それが本当の地獄で
す」▼されどうべはさら
に聖マカリオスに「背中
合わせに縛られた鎖がほ
どかれて、相手の顔が見
えるように祈ってください
い」と願う▼パバドロス
氏は、この古事を引きつ
つ、「社会であれ、政治の
領域であれ、そういう扉
で囲まれた状態、それが
私たちの今日の社会の状
態ではないかと思いま
す」と結んだ▼話は平易
で、わかりやすいが、実
に示唆に富んだ言葉では
ないか。私たちキリスト
者は、死者との対話では
なく、顔と顔とを見合わ
せる平和な社会のため祈
ることを求められてい
る。

1988. 4. 30